

情報 ネットワーク

平成29年度 名古屋支部総会ルポ

平成29年名古屋工業会名古屋支部総会は、平成29年6月24日14時30分より、名古屋工業大学4号館1階ホールにて、出席者86名を迎えて開催されたが、名晶会から計測会に支部の事務局がバトンタッチされて最初の総会であった。

総会は、大鹿秀正名古屋支部長の挨拶から始まり、単科会、支部、工業会全体の三つのチーム力の有機的な相互関係を背景に、名古屋支部としての支部会員へのサービスと大学への貢献に勤めていきたいと力強く所信表明された。

引き続き来賓挨拶を頂いた。名古屋工業会水嶋敏夫 理事長は、工業会として取り組んでこられた事業について、幅広い年齢層の会員へのサービス、母校への寄与、工業会を維持進展させるための組織的運営など多岐にわたり紹介された。続いて名古屋工業大学 鶴飼裕之 学長は、母校の現状について、最近の急速、複合的に様相を変えつつある科学技術の世界の中で力強く進展している様子を紹介された。

その後名晶会の栗田典明先生から昨年度の会計及び事業報告がなされ承認を受け、さらに計測会より今年度の企画案と会計案の提案がなされ承認された。

この後、一般社団法人「持続可能なモノづくり・人づくり支援協会(ESD21)」理事長、元名古屋工業大学客員教授(産学連携)の黒岩恵 様より「第四次産業革命時代の持続可能なモノづくり」と題した講演を頂いた。劇的に進む IT 技術の革新を背景に、これまでの日本のものづくりの有り様が大きく問われている。この状況の中での持続可能なモノづくりの希求を基軸に、① IoT機器とスマートファクトリー事例、② Industry4.0時代の国内外の取り組み、④なぜ今トヨタ生産方式なのか、について議論され、イノベーションを実現する技術としてのIoT/ICT化の重要性を強調された。来聴者数は97名であり、関心の高さが窺える。

懇親会は、17時35分より浩養園スターホールで約2時間にわたって立食形式で開催された。工業会の内藤克己常務理事の挨拶から始まり、光鯨会A20の浦野三男様に乾杯の音頭を取って頂いた。現在96才で、工業会では最高齢でありながら、かくしゃくとしたお姿に感動を覚えると共にそうありたいとの思いを強くした。終盤、名古屋工業大学理事で副学長の内匠逸先生、名古屋工業大学副学長の犬塚信博先生の御挨拶を頂き、名古屋支部大鹿秀正支部長の一本締めで閉じた。

懇親会では今回、新しい試みとして、宴半ばでそれぞれの単科会から一言を頂いたが、興味深いお話を伺うことが出来た。また、久しぶりに再会された方々もおられ、会場の至る所で遠い思い出話や近い思い出話が満開状態であったように思う。気がつけば用意された料理はほぼ完食されていた。出席者は75名であった。

名古屋支部の運営は今後二年間計測会のメンバーで構成されるチーム計測が担うが、今回の総会運営について幾つかの反省点が指摘されている。チーム計測を中心に計測会で検討し今後に活かしたいと考えている。

記：大鑄 史男



懇親会にて、学長と支部長を囲む若い工業会会員達

大阪支部/兵庫支部共催 平成29年度「春季見学会」開催報告

名古屋工業会大阪支部/兵庫支部共催の春季見学会を5月27日に開催致しました。今年は神戸開港150年でもあり、この機会に明治からの神戸のまちを振り返るという目的で「湊川隧道」と「旧居留地の建築物」を見学しました。参加者は約40名でした。

前半の「湊川隧道」では兵庫県庁で長く土木関係に携わっておられた佐々木良作様にご案内、ご説明戴きました。尚、この「湊川隧道」はNHKのプラタモリでも放送され、その時の案内役は今回の佐々木様がされました。「湊川隧道」は神戸市兵庫区に位置する標高85mの会下山をくり抜く、わが国初の近代河川トンネルとして1901（明治34）年8月に竣工しました。しかし、平成7年の阪神・淡路大震災によりこの湊川隧道は被災、災害復旧助成事業により新湊川トンネルが建設されその役割を終えました。その後、兵庫県では「トンネル保存検討委員会」を設置、歴史的・技術的評価を検討した結果、地域の文化を継承する近代土木遺産として保存することが決定しました。その結果、現在では「湊川隧道保存友の会」が組織され、定期一般公開や講演会等が実施されています。詳細は湊川隧道公式HPをご参照ください。

<http://minatogawa-zuido.com/>



湊川隧道入口にて



湊川隧道内にて

後半では、楠田修三氏（A50、元兵庫県庁）のご案内で、旧居留地の神戸港開港当時に建設されて今なお健在している建造物や記念碑を見学しました。三宮東遊園地を出発し、網屋吉兵衛碑・海軍操練所碑→神港ビル→海岸ビル（旧三井物産）・商船三井ビル→神戸市立博物館（旧横浜正金銀行）→煉瓦造下水道→大丸南第1別館→三宮神社を見学しました。当日は少し暑いぐらいでしたが、風も心地よく吹いていて、とても快適に見学・散策することができました。見学後は元町中華街にて懇親会を行いました。

尚、神戸開港150年を記念して神戸市では様々なイベントが計画されています。詳細は以下の「神戸開港150年記念事業実行委員会」のHPをご参照ください。

<http://www.kobeport150.jp/index.html>



三宮神社にて

東京支部「第59回 東京ごきそサロン」報告

第59回東京ごきそサロンが、2017年6月7日(水)18時から八重洲倶楽部で『エンジニアリング企業の業務と最近の業界動向』をテーマに開かれ、出席者は36名でした。講師は、日揮(株)インフラプロジェクト本部産業システム設計部担当部長のD56院卒の刑部道博氏です。刑部講師は、石油精製等のエネルギープラントのシステムエンジニアリング・制御設計業務に従事し、その後連続系プラントの制御設計担当を経て、1995年より医薬品工場建設プロジェクトの制御システム、製造実行システム等の設計業務を中心に関与してきました。

今回は、④エンジニアリング企業、⑤日揮の例を中心に最近のエンジニアリング事業、⑥医薬品工場建設におけるキーワードのGMP(医薬品等の製造管理及び品質管理の基準)対応について紹介していただきました。

【講義内容】

④エンジニアリング企業

①エンジニアリングとは? : 人材、材料、設備機械などの統合されたシステムを対象にして、その設計、要素調達、工事、運用を行う場合に、目的に最もあった最適の機能を実現するように行う一連の活動のこと。

②エンジニアリング業界とは? : エンジニアリング協会による2015年度のエンジニアリング業界動向に関するアンケート調査の例では、日揮・千代田化工建設・東洋エンジニアリングの大手3社を含む専業20社、安藤ハザマ等の総合建設14社、IHI等の造船重機・横河電機等の電機等22社の計56社が回答しており、受注額の規模は、16.7兆円(国内81%)である。

⑤日揮の例を中心に最近のエンジニアリング事業

①事業内容 : 日揮の事業内容は、各種プラント・施設に関するEPC事業と、石油・ガス・資源開発、ユーティリティー事業に関する投資等の非EPC事業で構成している。EPC事業は、営業・事業計画・基本設計、受注後のE(詳細設計)・P(調達)・C(建設)、完成後のオペレーション・メンテナンスからなっている。その主な対象分野は、

石油・ガス化学等のエネルギー・化学分野と非鉄精錬・医薬品・研究所等の一般産業・社会分野と多岐に亘る。

②日揮の目指す方向性と事業領域 : 基本方針は「EPC事業の分野の拡大」で、重点施策として

a)マーケット拡大-既存エリア、開拓中エリアに加え、東アフリカ・中央アジア・イラン・イラクへの拡大を目指す。

b)プロジェクト遂行力強化-国内外のEPCグループ会社・欧州拠点・JVパートナー・新興国対応

c)事業領域拡大-アップストリーム・発電(海外、原子力・ソーラーパワー)・社会インフラ・O&Mサービス

d)技術優位性追求による受注競争力強化-LNG分野の技術力強化(小型LNGプラント・空冷式LNG)、プロジェクト遂行技術高度化など

③エンジニアリング産業の課題 : 直近5年間の現在及び将来の課題は、「新規事業の展開」、「労働力・人材の確保」「海外を含む営業力の強化」が、毎年常に上位を占めている。

⑥医薬品工場建設

①建設のポイント : a)三極(日本・米国・欧州)GMP対応、b)限られた空間の中にプラントを納める、c)クリーンルーム対応、d)バッチプラントの制御、e)開発品の特許期間の存在による短納期の対応

②GMP対応 : a)GMPの達成-医薬品製造工場の構造設備、製造管理の方法(手順、工程等)、品質管理の方法が、医薬品の製造管理および品質管理に関する基準を満足していることを、バリデーション(科学的に証明し文書化)すること。b)コンピュータ化システムバリデーションの適用-制御システム、製造実行システム、機械制御システム等のコンピュータ化システムに対して適用される。講義終了後、「ビックデータソリューション」におけるIoT活用のお話等、多岐にわたる質疑応答があり、懇親を深めて盛況に終えることができました。

記 : 福間 洋二 (M49)



講師 刑部道博氏 (D56院卒)



講義中



質疑応答 (食事中)

卒業50周年記念「M42会」報告

M42会は、名古屋工業大学機械工学科昭和42年卒業のクラス会です。本会は、卒業直後に結成されたのではなく、約30年後に発足しました。それは、各自が学生時代を思い出して、それらを懐かしく感じる年齢に至ったという意味で、正に適時だったのでありましょう。

初回は、平成7年名古屋駅前中華料理店でしたが、その後、湯の山(三重)→犬山(愛知)→猿投(愛知)→有馬(兵庫)→修善寺(静岡)→長良川(岐阜)→兎島(岡山)→奈良→鳥羽(三重)の各地で開催して参りました。最近の会は、一泊二日の日程で前日に懇親会を開き、翌日は観光組とゴルフ組に分かれて楽しむとパターンが固定化しています。

幹事役は、その都度、開催地近辺のメンバーが担当するという形で継続しております。

そして、今年は卒業後50年という記念すべき年に当たり、関東、中部、阪神、中国の会員が幹事団を結成して、同会員の水嶋敏夫氏(現名古屋工業会理事長)からの情報も頂き、母校訪問をメインイベントとすることに決し、以下の行事を実施致しました。本会の計画と実施に、名工大卒業生連携室の全面的なご支援を頂きました。心より感謝申し上げます。

2017年6月6日、幹事団が名古屋工業会と卒業生連携室への表敬を済ませた後、13時に集合した会員は、連携室のご案内の下に新たな校舎群の間を巡り、昔の儘の古墳を觀つつ、構内を探索させて頂きました。その中で、電気・機械工学科の佐野研究室では無動力歩行支援機構を、石野研究室では内燃機関の最新研究についてのご説明を頂き、研究室も訪問させて頂きました。更に、新装なった図書館、新講堂、校友会館の展示室等々も見学させて頂き、それぞれに新鮮な感慨を持つことが出来ました。

懇親会は、校友会館1Fの‘Café Sala’にて行われました。今回集合したのは19名でしたが、持ち寄った写真や資料を觀つつ、改めて過ぎし50年を振り返り、昔話や近況報告に時を忘れました。今回は在学生の様子を觀て、新たな大

学の在り様を感じましたので、「単に講義を受けるだけでなく、グループになって討議している姿は、斬新だね。昔も、仲間でよく集まっていたけど、それは別の卓だったねー。」「学内に女子学生が居るというだけで、何となく違った雰囲気になるものだね。」「研究内容は、もう我々では付いて行けない世界になっていると感じたね。」等々、感嘆しきりでした。

次回は大阪地域での開催を約し、50周年という区切りに大きな思い出創生感を抱きつつ、卒業時のメンバーが8名逝った現実に鑑み、健康の大切さを痛感して散会致しました。

幹事団：広川芳郎、小西洋造、吉田信夫
宇敷忠雄、水原修平



恒例ヨット部ファミリーデー開催

7月16日、名工大ヨット部のファミリーデーが蒲郡海陽ヨットハーバーで開催されました。

ヨット部では50年以上前から艇庫のある海でファミリーデーを開催しています。ファミリーとは現役やOBの家族です。今年は蒲郡市の新艇庫に移って初めての開催です。

部長の市村教授はじめ、現役生とそのファミリーに部のOBで総勢百人以上、生後数ヶ月の超ヤングから87歳のOBまでという多彩で活気あふれる盛会でした。

当日は9時半艇庫に集合し、午前中は部の所有艇数隻とOBのクルーザー、それに練習支援用のモーターボートと船外機付きゴムボート2隻の大集団で海上に繰り出し、ファミリー主体で12時までヨットを楽しみました。

競技用ヨットは全長約4.5mのスナイプ級で、高速で走る上に順風ならしっかり波しぶきもかかります。最初はこわごわだったファミリーも風速4～6 m/min.と遊覧帆走には最適の風に帆送の楽しさを満喫。クルーザーではキッチントイレ付きの艇内を見て、これで太平洋横断できるの？と興味津々でした。

午後は艇庫前で例年恒例のバーベキューです。現役陣が猛暑の中苦勞して数台のコンロを設営、全員でのパーティーに時の立つのも忘れての歓談しました。

こうして楽しい一日を過ごし、来年の再会を約して4時ごろの解散しました。



ヨット部は開学以前の工業専門学校時代からの伝統があり、かつては全日本インターカレッジで二度の準優勝という実績がありますが、最近部員数の減少で低迷していました。

しかしここ数年の強化活動が実って現在は女性8名を含み部員数33名となり、特に今年は一年生の入部が多く今後の活躍が大いに期待されています。

ヨット部のホームページは <https://meiko-yacht.jimdo.com/> です。ぜひご覧ください。

記：柴田孝介(Y28)



大阪支部技術士部会報告

平成29年4月27日(木)に、本年第一回の大阪支部技術士部会をアーバネックス備後町ビル2Fにて開催しました。参加者は11名で、大阪府・兵庫県など関西地区だけでなく岐阜県から、ごきそ技術士会の会長田中秀和さんが参加され、名古屋での活動も紹介して頂き、交流が図られました。

最初に、燃料電池自動車導入に重要な「水素利用系を含めた水素供給インフラ」のテーマで川崎重工業(株)の技術士、工学博士でもある院M51卒の神谷祥二さんに、水素エネルギーシステムの特徴と将来予想、水素火災等の話をして頂き、質疑応答で盛り上がりしました。

その後、元大阪支部長木越正司さんの台湾新幹線の地盤強化対策の話など、各自の実施している興味ある技術課題などを話し合っていると、あっという間に2時間半が過ぎていました。次回は10月頃の予定です。

記：松永純二(M46)



K会ゴルフの報告

K会ゴルフとは昭和52年名工大金属工学科卒業の仲間数名で始めたゴルフコンペであります。気の合った仲間という事もあり今更、親睦を深める必要もなくゴルフを楽しみ、そして、腕を競ってきました。今では54回を迎えます。何年前に木曽駒高原カントリーで開催した大会では夜の宴会が学生時代の雰囲気そのもので大変盛り上がった事が楽しく思い出されます。又、昨年7月には第50回の記念大会という事もあり数名の女性ゲストを迎えて華やかに開催され、その時のプレーの様子をプロのカメラマンにお願いしてDVDに残しております。

当初、52年卒業の仲間が中心でありましたが学年を超えて元名晶会理事長の近藤佳孝様、野々山秀夫様、前名古屋工業会名古屋支部長の加川純一様、現名晶会理事長の川北高生様初め、元学長の松井信行先生、名誉教授の田中皓一先生にもご参加頂くようになりました。学外からは元名古屋市長の松原武久先生、現在名古屋大学金属工学科OB会(共晶会)会長の坂本雅昭様(元大同メタル工業社長)、元名鉄百貨店社長の神野重行様にもご参加頂いております。坂本様とは近いうちに名晶会対共晶会の対抗戦ができれば交流の輪が広がりより楽しい会になるのではと考えております。

この記事を読まれて是非、参加したいと思いの方はご連絡ください。

記：堀尾 順一(K52)



第49回K会ゴルフ会(2016年3月27日、東名古屋CC)



第50回K会ゴルフ会(2016年7月3日、東名古屋CC)

第24回 双友会東京支部懇親会

平成29年6月10日土曜日正午から、歩行者天国で賑わう中央区銀座のレストランで第24回双友会東京支部懇親会を開催しました。

今年は名古屋工業会東京支部長 檀尾恒次氏(C48)もご出席を頂き、名古屋工業会東京支部との初めての共催事業として行いました。これまでの単科会から工業会と広く連携を深めて行く端緒にしたいと思います。名古屋からは双友会会長の森川民雄氏(W45)のご参加があり、「名工大および双友会の動向」に関する講演を頂きました。その後、初代双友会東京支部長山田實氏(W23)のご発声で乾杯、懇親会が始まりました。今回は初参加の卒業生3名(うち1名は女性卒業生)も加わり、徐々に世代交代を感じさせます。

先輩のスピーチには、戦後の苦しい時代を乗り越えてきた確かな自信と誇りがありました。後輩のスピーチには、世の中を切り開いて行くパワーがありました。また自動車、航空機産業等が集積している中京地区で新繊維素材のハイテクノロジー化が求められている中、伝統ある我が名工大の繊維系の活躍に期待を寄せる意見もありました。同期会が同世代の横の拡がり(空間)に対して、同窓会は縦の時間経過(歴史)を辿ります。双友会が先輩から後輩へと引き継がれていくことを願い、又の再会を期し散会となりました。



出席者(敬称略)

檀尾恒次(C48)、森川民雄(W45)、山田 實(W23)、飯田秀郎(W33)、佐藤 誠(W33)、與語達也(W36)、細井 勉(W37)、倉島俊二(W38)、谷口庄平(W42)、魚住峰男(W42)、印藤 嶠(W43)、谷岡明彦(W45)、山中 一(W46)、飯田哲哉(W56)、牧原八千代(W59)、渡邊知行(W61)

計 16名

平成29年度 西濃御器所会開催報告

岐阜支部活性化事業の一つである「西濃御器所会」が去る7月14日(金)午後6時30分よりJR大垣駅前のロワジールホテル大垣にて開催されました。当会も発足5年となり、出席者も50名となり盛会になりました。

今回は、名古屋工業大学・鶴飼裕之学長をお迎えして、大学の沿革や、学科・専攻の再編成のお話、これからの大学づくりなど講演をいただきました。ものづくりの拠点中京地域にある大学として産学連携のトップクラスの実績を活かし、さらなる躍進をめざす地域企業を積極的に支援する意気込みを述べられました。

懇親会では、鶴飼学長を囲んで歓談したり、学科を超えての交流、職域で交流するなど、時間を忘れて懇親が続きました。

西濃御器所会は、岐阜県大垣市中心にその近郊に勤務している卒業生の集まりとなっています。卒業年度も昭和34年卒から平成28年卒まで幅広く、今回の出席者の60%が平成年度の卒業生であり、若い世代の多い集まりです。このように、近隣にて若い世代が勤務帰りに気軽に集まり、交流できることに意義があり、名古屋工業会の活性化につながればと願っています。

記：関尾 光正(D41)



名工会東京支部 第231回ゴルフ大会報告

名工会東京支部第231回ゴルフ大会は好天のもと、6月2日に新緑、薫風かおる千葉県佐倉カントリー倶楽部にて開催されました。

当日は欠席者もなく、最高齢94歳の小関さんを初めとするエントリーされた総勢16名が参加され、好コンディションのもと全員が無事ホールアウトされました。

優勝 B45 林 利信さん(Net73 Hdcp14)、準優勝 C31 黒田達郎さん(83歳 Net80 Hdcp27)、3位 D36 加藤精也さん(Net82 Hdcp24)が勝ち取られました。また、各種の副賞がそれぞれの該当の方々に授与されました。

ゲーム終了後、クラブにて各賞の表彰式と懇親会を行い入賞の挨拶を頂くと共に、ゴルフ談義に花を咲かせました。なお、当年80歳になれるD36 加藤精也さんに傘寿のお祝いを差し上げ、歓談を16時過ぎまで行い、次回は9月に都心の若洲ゴルフリンクスにての開催を約束し解散いたしました。なお、当会の活動内容問い合わせ及び入会希望の方はC44川島(k_tai@amethyst.broba.cc)までご連絡下さい。

記：実行幹事 藤田正浩(E33)、津田卓美(M39)

順位	参加者	IN	OUT	GROSS	HDCP	NET	職域
優勝	林 利信	B45	44	43	87	14	73 優勝賞
準優勝	黒田達郎	C31	54	53	107	27	80 準優勝賞
3位	加藤精也	D36	53	53	106	24	82 3位賞 水平賞
4位	野澤滋為	M36	49	53	102	17	85
5位	藤田正浩	E33	49	48	97	11	86 飛賞、NP賞
6位	竹林義之	D39	50	52	102	16	86 NP賞
7位	寒川修平	E48	48	49	97	11	86 NP賞
8位	原 弘	C42	52	53	105	16	89
8位	田原敬造	C31	60	64	124	34	90
10位	中村芳明	M35	55	53	108	16	92 飛賞、大波賞 NP賞
11位	済木良亮	D35	53	64	117	25	92
12位	津田卓美	M39	52	56	108	15	93
13位	小関健二	M18	67	66	133	34	99
14位	川島 泰	C44	59	57	116	17	99
15位	伊藤禎治	A35	60	64	124	21	103 BB賞
16位	加藤 規	E30	86	103	189	40	149



第110回 名工大ごきそ会報告

第110回名工大ごきそ会は、平成29年6月16日(金)に名門愛知カントリー倶楽部で14名の参加を得て開催を致しました。

今回も気にしておりました天候も、前回同様、気分爽やかなゴルフ日和となり、本当の実力を試すゴルフとなりました。

そして、栄えある優勝は、今回で3試合目です。伊佐治 武様(A39)が、グロス(94)、ネット(80)で実力道理、連続で、優勝をされました。2位は、この会切つての実力者であります泉地正章様(W44)がグロス(87)、ネット(83)で2位を獲得されました。3位は、久しぶりに市橋洋志様(W40)がグロス108、ネット84で入賞されました。しっかりと練習された方は、そのままスコアに出ており、いかに常の練習が大事であるか証明をされました。

終了後、恒例の懇親会に入り、団欒の中、表彰式を行いながら、改めて前回の桑名CCと同様、名門愛知CCのむつかしさを再認識致しました。そして、次回は水嶋敏夫様の御紹介により、昨年同様、ロイヤルカントリークラブでH29年9月19日(火)に開催決定を致しました。時節柄、紅葉の季節となり、スコアも大事ですが素晴らしい秋の紅葉の季節を堪能出来るチャンスであり、多くの出席者を期待しております。

前回にもお願い致しましたが、現在の会員数は、24名ですが、ごきそ会を長く継続する為にも、会員の増強が絶対必須であります。これからも、会員の皆様方と打ち合わせをしながら、一人でも会員の増強を、進めて行きたいと思っております。御協力よろしくお願い致します。

記：柴田 作(A42)



第18回 関西CE会総会の開催について

平成29年7月22日に、第18回関西CE会が開催されました。

参加者は総勢26名で、ご来賓として名古屋工業会・本部副理事長であり大阪支部・支部長の岡崎様(A46)にお越しいただきました。また、講演会では、名古屋工業大学 前田健一教授に、「甚大化・複合化する地盤災害の常識を再整理して備える～豪雨、洪水、地震～」についてご講演をいただきました。

今回の総会では、西川芳久会長(C47)の下、恙無く議事が進行いたしました。平成11年以降卒業の若手・中堅組で5名(うちCH28、CH29各1名)の参加があり、幅広い世代の交流ができました。また、懇親会では、小西日出幸氏(C55)の指揮による校歌合唱や、久しぶりに参加され

た方の近況報告などで交流を深めました。

今後も、若手・中堅・先輩諸氏と一緒に、幹事一同、関西CE会を盛り上げていきますので、関係者の皆様には、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



懇親会後の記念撮影

あなたも「ごきそ」の表紙を飾ってみませんか？

名古屋工業会誌「ごきそ」表紙掲載写真募集

一般社団法人名古屋工業会(名古屋工業大学全学同窓会)では、会誌「ごきそ」を幅広い年代の方が交流できるツールとして活用いただけるよう、同窓生の皆様から随筆や紀行などの原稿と共に、表紙に掲載する写真の投稿をお待ちしております。ご投稿いただく写真や写真データ(JPEG)は次の要領でお願い致します。

- * 未発表の作品で、他への応募予定のないもの
- * プリント写真ならば2 L判程度の大きさ、写真データならば左右のピクセル1,000以上
- * 構図は 縦長(縦位置) を希望(横長の場合はトリミングさせていただきます)
- * 作品のタイトルと簡単な説明、撮影者の氏名(卒業学科・卒業年)及び連絡先を明記
- * 国立大学法人の同窓会誌のため政治色や宗教色を感じさせるものは避けてください。
- * 肖像権が生ずるような人物が特定できるものは避けてください。
- * 採用の写真は編集会議で諮ります(投稿＝掲載とはならないことをご了承ください)
- * 表紙に採用された場合は薄謝(クオカード等)を進呈いたします。

【送り先】〒466-0062 愛知県名古屋市昭和区狭間町4 一般社団法人名古屋工業会

E-mail : gokiso@lime.ocn.ne.jp